

2021年度

まちづくり活動責任者会議

日時：2021年11月25日(木) 13時～17時まで

オンライン
会議に参加

この日は、日本医療福祉生活協同組合連合会 まちづくり委員長 高橋勇美さんの基調報告で始まりました。

この会議の目的として、①上半期のまちづくりの取り組みの共有と、下半期に向けての意思統一を図る。②くらしを支え、住み続けられるまちづくりの将来設計を描く。③学習講演、各地の活動報告から今後の取り組みを検討する。として3つの情勢と4つの重点課題が示されました。

三つの情勢とは

一つ目は、新型コロナウイルス感染症爆発。二つ目は、憲法や平和、核兵器廃絶、福島原発事故後。三つ目は、社会保障と「骨太方針2021」。

四つの重点課題

①幅広い連携で、誰一人取り残さない「居心地よくくらせるまち

づくり」を進めます。

・班や支部など顔の見える範囲でのネットワークづくりから、組合員の枠を超え、他団体や自治体とも連携し、暮らしの安心・安全のネットワークづくりを進めます。

・創意工夫による集いの場の継続と、集まらない場合の方法も模索し、新たな組合員活動を創造しつながりづくりを進めます。

②「困った」に気づき寄り添えるつながりをつくり、解決する「ちから」をつける取り組みを進めます。

③日本国憲法を学習し、平和を守る運動をすすめる、医療生協の理念「健康をつくる・平和をつくる・いのち輝く社会をつくる」を推進します。

④震災被害を風化させず、原発ゼロを求め連帯した取り組みを進めます。



続く学習講演は、特定非営利活動法人「ほっとプラス」代表理事 藤田孝典さんの「コロナ禍で貧困問題に向き合うまちづくり活動」で、生存のためのコロナ対策ネットワークを広範に取り組む中で、労働問題や生活困窮、ハラスメント、差別に直面する人々の相談に応じ、現場の声をもとに、コロナ危機のもとで人びとの生存を守るための、具体的な政策提言やアクションを行い、状況改善することを目的に活動をしている。

× × ×

各地の生協報告は3本の報告がありました。

報告①は、群馬県高崎市のはるな生協「えがお（ご縁のあった方と笑顔でつながる場所）」、

高齢者が歩き回れるまちづくりで「すわる」場所が出会いの場所という最初のイメージはこんなでしたが、街中にベンチがあればそこで一休み、今日はあのベンチまで出かけてみようかな、ベンチで知らない人との世間話など、今ではベンチの回りにはリサイクルコーナー、移動パン屋さん、希少野菜販売、はじかれ野菜

市など、今後もある楽しい「憩いの場」になればとの願いがあります。

報告②は、福島医療生協からの「ALPS処理水海洋放出」を止めるとりくみ。

活動は2020年9月から、処理水の海洋放出の議論が本格化、2021年4月にコロナ禍に乗じて海洋放出が決定、地元置き去り、国際社会への説明も不十分な事もあり、2021年9月から、福島医療生協で署名活動を開始、現在も反対の運動を進める。

報告③は、沖繩医療生活協同組合からの「沖繩のいまー施政権返還(祖国復帰)50周年を前にして」沖繩というところは、美しくゆったりした場所ー癒しの島と人は言う。本当はどうなのか、長く日本の一つとして認められず、日本の高度成長期もアメリカ軍に占領され続けた。

復帰の原点とまちづくりは「核も基地もない平和な沖繩」の実現のために「私たちと一緒にたたかっていただきたい」このことを最後に呼び掛けます。(事務局)

